

# 今後の自然学校の充実を図るために

今年度、自然学校推進事業は事業開始から30年目を迎えました。そこで、県内の90校を抽出し、児童・保護者・教員を対象とした質問紙調査を実施し、自然学校の評価・検証を行いました。そして、充実に向けた4つの視点で分析した結果をリーフレットにまとめました。各小学校においては、自然学校のさらなる充実のために、お役立て下さい。

## 調査の概要

- 1 目的 昭和63年に事業を開始した自然学校推進事業が平成29年度に30年目を迎えることから、小学校5年生の児童とその保護者、担当教員に対する質問紙調査を実施し、事業の評価・検証を行う。
- 2 調査時期 各小学校の自然学校終了後、1週間以内
- 3 実施校数 41市町90小学校
- 4 回答数 児童 5,707名  
保護者 5,111名  
教員 254名

※調査結果の詳細は、平成30年度末に作成する「自然学校指導資料（仮称）」に掲載予定です

## 調査結果を踏まえた充実に向けた4つの視点

### 視点1

自然学校のねらいを達成するために何が必要かという視点でプログラムをデザインしましょう

### 視点2

自然学校の基本理念を踏まえ、ゆとりのある時間の中で自然と豊かにふれあう活動を充実しましょう

### 視点3

自然学校をキャリア教育の視点で捉え直し、児童の基礎的・汎用的能力の育成につなげる取組を充実しましょう

### 視点4

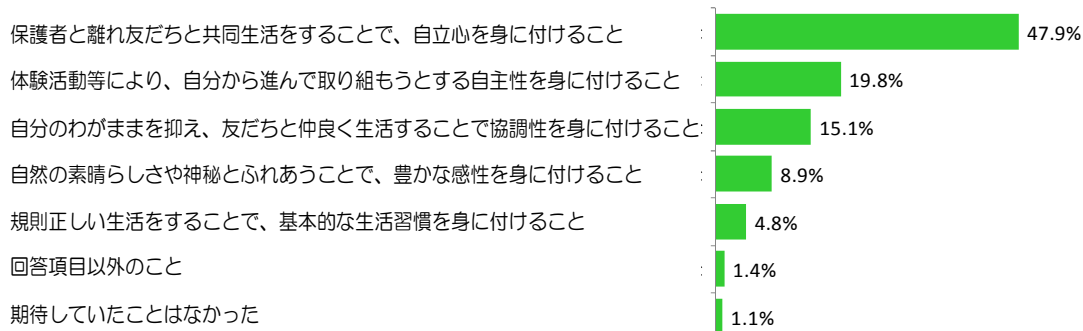
児童の成長を積極的に認め、自然学校の成果や子どもの学びをその後の学習や生活に生かしましょう

## 視点1 自然学校のねらいを達成するために何が必要かという視点でプログラムをデザインしましょう

児童の実態や保護者の願い等を踏まえて、自然学校のねらいを設定し、その達成のために何が必要かという視点でプログラムの内容を決定し、それぞれのプログラムを効果的に組み合わせることが大切です。

例えば、「主体性を育む」というねらいのもと、野外炊事で材料を用意せず、出発前に班でメニューを考えさせ、現地で買い物をして、調理させるなど、前年度と同じプログラムであっても内容が工夫できないかを検討しましょう。

### 自然学校を通して、お子様の成長面で期待していたこと（保護者質問紙）

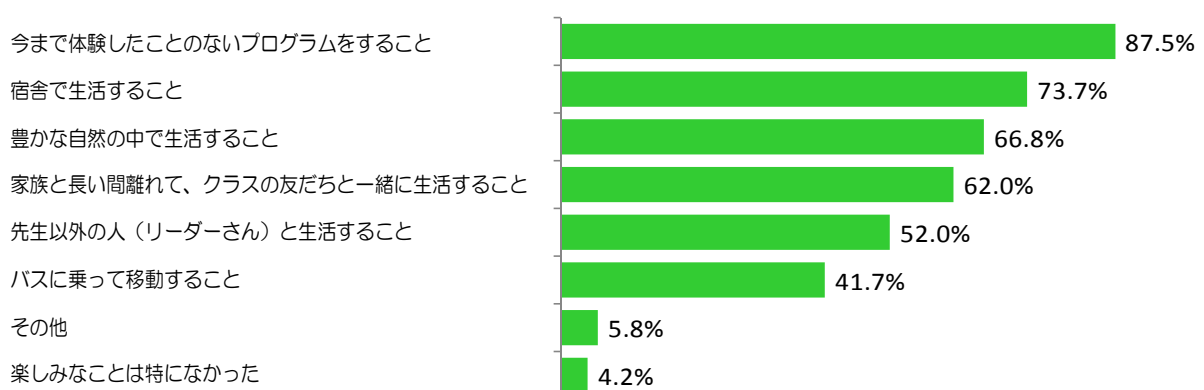


## 視点2 自然学校の基本理念を踏まえ、ゆとりのある時間の中で、自然と豊かにふれあう活動を充実しましょう

自然学校は「自然とのふれあいの中で自然の神秘、優しさ、恐ろしさなどに感動し、豊かな感性、問題解決能力、粘り強さなどを培うとともに、人とのふれあいを通して、生きる喜びや苦しみを知り、思いやり、協調性、社会性などを身に付ける」ことを基本理念に始めました。

例えば、隠れ家作りをする時も、2日目の午後に現地を下見して、その周辺で使えそうな自然物を探し、宿舎に戻って完成予想図を考え、3日目に1日をかけて作業に取り組むなど、ゆとりのある時間の中で、児童が自由なアイデアを出し合い、試行錯誤しながら、グループが協力して活動できるようなプログラムを検討しましょう。

### 自然学校に行く前に楽しみに思っていたこと（児童質問紙） ※複数回答

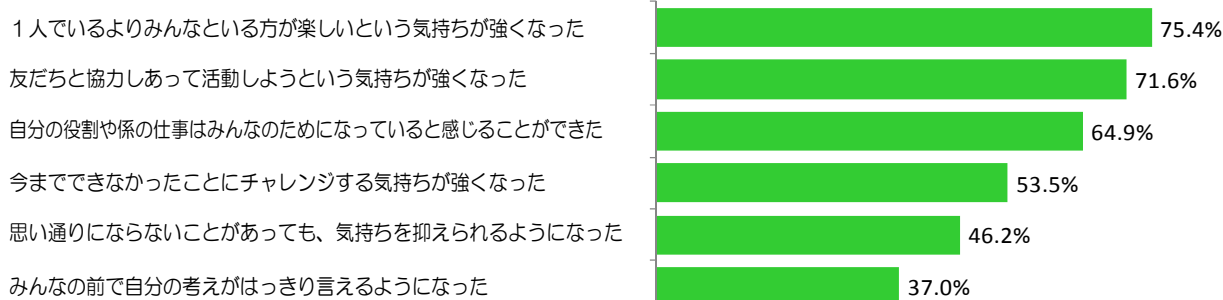


### 視点3 自然学校をキャリア教育の視点で捉え直し、児童の基礎的・汎用的能力の育成につなげる取組を充実しましょう

自然学校は自分の役割や責任を果たすとともに、自分の思考や感情を律し、集団への連帯意識を高めさせる貴重な機会であり、キャリア教育を通して育てる基礎的・汎用的能力の育成につなげることができます。

例えば、ウォークラリーのコースをグループで決めることで他者と折り合いをつけたり、選択プログラムにより自分の興味・関心について考えたりするなど、児童のキャリア発達を促す活動を意図的・計画的に取り入れましょう。

自然学校を終えて感じていること（児童質問紙） ※「そう思う」と回答した割合

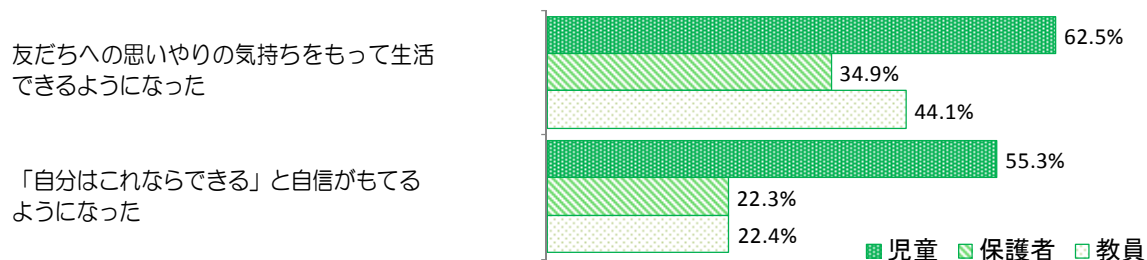


### 視点4 児童の成長を積極的に認め、自然学校の成果や子どもの学びをその後の学習や生活に生かしましょう

児童は、自然学校での成長を学校や家庭等で認められることで、自らの成長を実感し、「学ぶこと」への意欲が高まります。そして、自然学校を一過性のものに終わらせないためにも、グループでの問題解決学習や学校行事など、機会を捉えて、自然学校での成果等を振り返らせることが大切です。

例えば、事前学習・自然学校・事後学習を通じて、キャリアノートを活用して、それぞれの段階における自分の考えや感想などを児童が書き留めるだけでなく、ノートを基に、教員と対話をしたり、児童同士の話し合いを行ったりすることを通じて、自分自身の良さを知るなど、自然学校の振り返りの場面で、多面的・多角的に自己理解が深められるような手立てを検討しましょう。

自然学校を終えて感じていること（児童・保護者・教員質問紙） ※「そう思う」と回答した割合

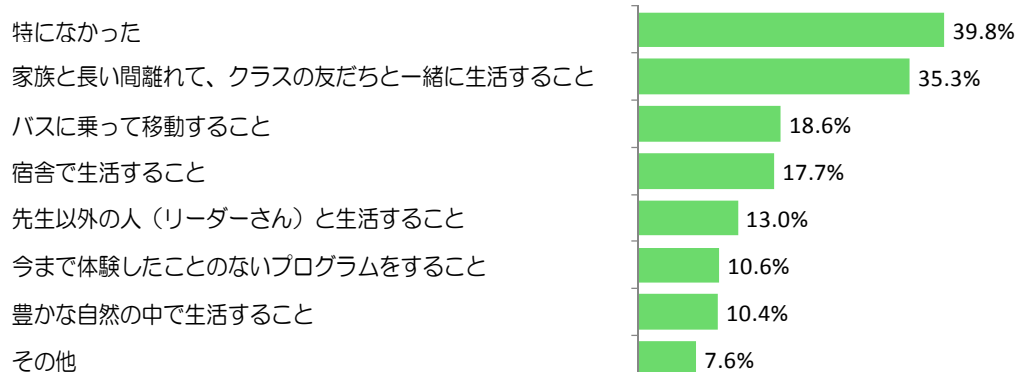


## ★保護者の約半数は自然学校経験者です！

保護者質問紙の結果、回答した5,111人のうち、2,562人（50.1%）が自然学校経験者であり、今後、その割合は増加していきます。

児童の約6割は自然学校に対して、何らかの不安を感じており、保護者が自分自身の自然学校での体験を児童に話すことで、自然学校への不安解消につながる効果が期待できます。

自然学校に行く前に不安に思っていたこと（児童質問紙） ※複数回答

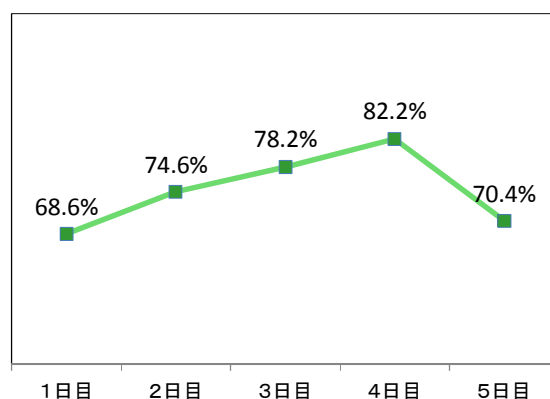


## ★児童の5日間の心の動きはどうなっているのでしょうか？

児童質問紙では、自然学校中に友だちと過ごしたときの気持ちについて、5日間を振り返って、どう思ったのかを聞きました。

その結果、初日から4日目にかけて、「楽しかった」と感じる児童の割合が増え、最終日には友だちとの別れを惜しむ気持ちからか、割合が減っています。各小学校で充実した自然学校の取り組んでいる成果が児童の調査結果にも表れていると言えます。

自然学校中に友だちと過ごしたときの気持ちとして「楽しかった」と回答した児童の割合



## ★「自然学校ガイドブック」（兵庫県立南但馬自然学校作成）の活用を！

南但馬自然学校では、プログラムデザインを中心に、自然学校を運営するポイントやQ&Aをまとめた「自然学校ガイドブック」を作成し、各小学校に配布します。各小学校における自然学校の充実のため、本リーフレットとともに積極的に活用願います。